

ふしぎな通学路

町田市立大蔵小学校 三年 小林^{こぼでし} 結生^{ゆい}

ここは、東京都町田市の小学校の通学路。ここでは、学校の正門前でじ童がねてしまうというふしぎなげんしようが、毎日おきている。でも、ねてしまったじ童はだいたい1分でおきる。だけど、日によって、もうすこし長くおきない日もある。

一年生は、このげんしようにおどろく。二年生いじょうは、みんなしっているからおどろきもしない。

でもある日、正門前を通った人がおどろいてけいさつにつうほうした。

「今は、いそがしいので、今日の十二時に話を聞きます。」

と言っていたけいさつかんが、学校に話を聞きに来たのは、十二時二分だった。

じ童だけじゃなく、けいさつかんもねてしまったのだ。

これは、大へんだと、そうさをかいしした。

近りん住みにききこみをした。

学校の近くの家のさいみんじゅつしがいるとのじょうほうがあり、ききこみに行った。

ちようど、朝と昼にさいみんじゅつのれんしゅうをしていたという。

パワーがかべをつきぬけてしまうほど、強力なさいみんじゅつだった。

けいさつが

「朝はれんしゅうしないでね。」

とおねがいしたら、このさうどうは、おさまった。

夜ねむれないとき、学校の前に行くときよくねむれるとひょうばんです。

ことばらんど賞
小林結生「ふしぎな通学路」

審
査
員
講
評

学校の前で寝てしまうという謎の現象にひかれ、どうなっ
ていくのだろうと気になりながら読み進めました。判明し
た原因にも笑わされましたが、特に騒動が収まったあとの
ラスト一行で視点を夜に転換したところがお見事です。と
ても微笑ましく、温かい気持ちになる作品でした。

—— 田丸 雅智